

自然観察会「秋の訪れとタカの渡りを見に行こう」実施報告

1 概 要

- (1) 日 時 令和元年9月21日(土) 午前9時30分～午後3時00分
(午前9時00分受付開始)
- (2) コ ー ス 博物館→諏訪沢入り→天覧山山頂(昼食)→谷津田→博物館
- (3) 講 師 天覧山タカ渡り観察グループ代表 市川和男氏
- (4) 参加者数 6名

【内容】

天覧山山頂はタカの渡りの中継地点になっており、毎年春に日本の北側へと渡っていく様子と、秋に暖かい東南アジア方面へと渡っていく様子が見られます。今年の秋の自然観察会は、この秋の渡りを観察することをテーマにし、併せて天覧山周辺の自然観察も行いました。

観察会前日の夜から雨の予報があり、無事タカが渡るのか…?という心配がありましたが、当日朝は曇り空で、様子を見ながら開催することになりました。



午前中に山頂に行き、まずは双眼鏡の使い方のレクチャーがありました。講師の先生から、タカがどのように渡りをするのか、どのような条件のときに多く見られるかのご説明をいただきました。このあたりの地形は丘陵地が多く、山の連なりに沿って風が発生しやすいことが良い条件になっているということです。

最初はなかなか鳥の姿を見つけることができませんでしたが、徐々に晴れ間も見え始め、ときどきノスリやサシバなどのタカの姿も見つかるようになってきました。



お昼を食べ始めた頃、空の遠くに発生した上昇気流に7羽のサシバが集まる“タカ柱”となった状態を見ることができました。

念願のタカ柱を見ることができて大満足、さてそろそろ出発しようというころ、山頂の真上をまっすぐに飛んでいくサシバの姿が。近距離でのタカに皆さん大興奮で、大満足のタカ観察ができました。



また、当日山頂では天覧山タカ渡り観察グループが観察を行っていたため、見つけるヒントをたくさん教えていただくことができました。

午後は天覧山から下ったところの谷津田で、大きなタカ以外にも、たくさんの生き物が天覧山には生息しており、この餌場となる環境が、タカが生きていくためにも大切だという話を聞きました。

ムササビの食痕や、枯れ葉にそっくりなクロノマチョウ、カラムシという植物を食べるフラスズメの幼虫など、鳥や動物、植物共に色々な発見があり、生態系を考えることができた一日でした。参加者の皆さん、講師の市川先生、ありがとうございました。